



特

13
3633
卷41

京傳著

仕懸文庫



大磯廓中沈景
鎌倉遊子傳記

葛唐丸粹

昭和二年六月八日
宮川夏次郎書

自叙 四

夫頼朝公乃御願會より大ハ
獨大儀の賤し形り虎少將哉
初としく許多此妓女をせ
あそそ元客安よ通以良
梶原く信ハ霞宿里れ矢筈

と達へ小林が慢と左右の鬢
或きま撫袖年が二日蘇乃得足
時致が疳積と煙筒の皿を
挫ぐ羽織工藤あしを羽織
歌妓ありり身中人男子等
阿豆ハ梳篋の妓女衆あり

或恍惚く近江の寔情あるも
ハ情で首の義理づくあ糸汝
息の猪牙舟よ乾頼公々
の音と神と花と一切遊ぶハ
討回の三おのどく扱れ外へ
出とる女と女と寸間狩場

の切なあり、於是又切丸と
とて子魂と紛失し、赤木徳と
しもと家へ靴とて靴堂満
江心と痛さく人や鬼五の
忠言却とて耳か途ふ是鑑
倉時々の妖境りて星月夜

乃井カの深カく戒イ且カ惡カ所カを
ウカし

北條時方キョウ寛政ケン三郎サン
祐安ユウ辛亥シンの荒ア次ジと
鬼王オウの正セイ自ジ和ワ田テン醜ウの

三目目

京傳醉中誌



仕懸文庫目錄

第一回

大磯往來游戲舟中之談

第二回

朝夷名祐成醉風流忌

還

第三回

舜鶴屋傳三教訓惜妓

第四回

梶原誇口罵蝶

妓為時致謬終身





其二

四圍

大儀 風俗 仕懸 文庫 山東京傳著

第一回



東山小妓と携り漢土の驕者もいませ
 練皂舗の出番のりりきりおび酒肆
 乃枝菘ぐりおたのいきり事成知るべし
 後鳥羽院の御宇文治建久の昔
 強倉の巽小あろく一ツの女長あり大破
 と名づく安小あろく一ツの陶朱倚頓が

富も桂林けいりんの一枝いちしのごとくごとくる小居こゝろての胎たゐ
君楊妃きんやうひの美みも崑山こんざん乃片玉なみたまの如ごとくく
黄金こゝろねの塵塚ちんさ葑氣ふうきの捨場すてぢ湯氣とうき盛さか
の場た不ふ小ことと願ねが卷ま安座あんざの失禮しつれいとと不
うらまそうらまそ同どう小こととととササササおせおせくく乃乃鄭てい考こう
志しのの雅が未み然ぜんとと忠ちゆう臣しんもも内ないのの心しん考こう
子こももううのの色しき老らうととるるととれれくく若わ死じととるるとと指さし
女にととままくく八はちのの清せいととななくく屋やととるるとと小このの心しんむ

しやうに母ははのの振ふりりととああままのの照てうととああのの河かり
或あるのの討う或あるのの被ひりりとと陸りく孤このの舟ふねとと稀まれのの舟ふねとと乃な
者もの多おほししゆゆとと舟ふねのの心しんとと河かのの風ふう情じやうとと舟ふね
乃な昔むかしのの舟ふねとと猪ちゆう牙ぎや舟ふね乃な拍ぱく解かいのの舟ふね
のの内ないんんちちううのの心しんとと舟ふねのの心しんとと舟ふねのの心しんとと舟ふね
先まのの心しんとと舟ふねのの心しんとと舟ふねのの心しんとと舟ふね
神かみのの心しんとと舟ふねのの心しんとと舟ふねのの心しんとと舟ふね
客きやく人にんのの心しんとと舟ふねのの心しんとと舟ふねのの心しんとと舟ふね

衣い服ふく小こわすらげは新しん子ことよぶりら米にわさす
 昨きのうの娘がい今日けふれかきまんと愛一つ羽はり
 化けしと子ことよぶりなんといままに記の月
 今いまももとと初はつ分ぶんりひねとと愛飲
 とつあて保たもといるよと鼻とある宵
宵とありの客きやくとらつたが朝といの
 福ふくじとさかにツあけのまらり昼ひるあそびお
 いまに何れ妓のみへ獨立の茶ちや末まつおとく

よろめの蜜みつ言げんの蜜夷いの風烟えんあさとおどと
よめのままとあちかくとというとりやがしとし
 てのちに舞まおのりすとし務むくすいはれもあり
うらきまも風かぜの鼻のさらとおもさま実まこと情なさけの雨の
腕のありといふはままくくい千せん差ま万まん別べつ妓ぎの條
氣性せい愛あい實じつ小こ足あし平へい康かう乃の盛せい末まつなるといふ
 ○この小相列半塚の書初めは橋の上の原を以て武家御所と爲
まままのあらびのあらびのあらびをしたといふはしたのあらび
ひらけのあらびはあらびといふはあらびのあらびのあらび
あらびといふはあらびのあらびのあらびのあらび

しんやちを

十ころが大破乃新市茶といふのう箱をうサ

急さつとその坂戸屋のうらゝ糸の次第さんとき

ころがござりやしいらちざね久くころ

新しんをせもときぞて死しござりて箱今いふころ

してあつあつのう箱中ちゆうのたむごかんかりの附つきむをう

久モレ枕箱まくらばこの引ひ出だふりくらがござりや久十

ツツトしかうらトト大だいる糸いとのあふあふ引ひ出だわらべわらべ舟ふねも

うららうらら仙せん基き通つう宝たからがが一いっ文ぶんろ

うらと上うやややや物もの引ひ出だの中ちゆううらうら糸いと引ひ出だらん

どまどま砥と屋やとと友とも經つとささぬぬ糸いとの戸とももめ

志しげげよりよりおおぢぢののけけおおぢぢげげととううササギギ

うう物もの久くホホニニそのそのああんんささげげののどどららけ

ななめめのの中ちゆうううららちちのの破やぶ屋やののうう人ひとササ大だいののううハハ丁てい

ああんんのの市いち場ばうののままくくききををれれ十じゅう大だいのの振ふ市いち

茶ちやといいふふののへへこころろへへふふぶぶ舟ふねががけけののててららににままるる

いいちちとといい物ものううくくささららううめめだだららササ十じゅうのの大だい

智屋と申すの村にござりぬ物大ちやとのみア
 おもアノト結うるの宿むよりてわさうららが
 そご十富倉と申すハ物さくらハアノ奈く
 わさうらうらお出せぬらうらさ香モシ夏の
 さくらうらの出たせが死ハよごらうらやと移入
 きよねん山のうらうらぬもくもくもやさ
 モシもやうやとぬ物コウおぢらハアノ湯門屋
 のり死乃ちちさるの稻荷アやさんといふ

山田いつりとのひ中と物コウ祐成さんハ元リ

坂が日記よのむりといふヨ大つそつうをんよく
 志んてらとやびトおとあといやうりまらうちや丁門
 船中よの子中ももそらや屋の子屋おんあさん志んてら
 の女とののけくありひがさ
 うのよ月傘と申すに物さうハ茶本女ころちの井ヲヤ
 おとと屋乃おぢさんぢけいさんぬらうらうらう
 がほくしはまらおのんぢぬ又おくりけいさう茶本屋
 女アイちりときかハせんしなトひびやう又二さうのちよ
 きさやうおひびりのせうらう

乃に天ごころちりしは破井とるよのまへのか
つておれ松ぼけりりし縄町乃ておれれり
くり松とる七ツやびサヤウーくくくく又わとより人
ち松のせいぞろあつ又そのおとよりあつどく人松ぞろ
まじりてまじりてまじりて松よりありし舟のまじりて何
松原上りおれしと志との屋敷に一人舟とつて一人の松原
わたりまじりておれりし舟のまじりて松原の川岸あり
まじりて **+** 船ひちりせん今あつ舟のまじりてあつと
はちもて松頭松よりのう **+** 船よくあつと
があつと大いとおれりし舟のまじりてあつと

とむせ きかく
とむせの客とむせがあつとくくくしんく
とむせまじりておれりし舟のまじりて
ト女舟松なしんであつとくくくくあつと
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
せん 船松松おれりし舟のまじりてあつとくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
くくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく
モウ で 後におれりし舟のまじりてあつとくくくくくくく

ろと云風来が如言なり 姿亦うはくし中
 築 大いそ乃繩町小鶴が云屋とい又大暖
 亦中云ふりて於茶店の娘ハ敬大酒の香ハ
 万客の鼻分つて ねさ厨下の湯氣上て
 香方のさうだぐごとく 約下踏と持くくは
 廻しわさぐべ火索箱上草履とあひ付
 て提来う船取あり口のうらぬ妓女あはれ
 わさくくろ舞妓何り 婢女素足で抱

借金あよりり 舞の若つけの細生と妻瓜
 せとろくく思ふよおどろ 下女あひ おどろくく思ふよおどろ
 おびえんまうりねいふのいふまじのむせつけのさあおどろ
 とまあおびえんうらあおどろをまよきーかえらうまどろ
 々あけいあし福あふ心見ごよ モシあしー者
 がつぞろよ あつぞろ 今のおさくこつぞろ
 じーしよよ あつぞろ あつぞろ あつぞろ あつぞろ あつぞろ
 おろくさんおびえんひびきうらあおどろ あつぞろ あつぞろ あつぞろ
 じーしよよ あつぞろ あつぞろ あつぞろ あつぞろ あつぞろ

だつ物娘のりてニラス **下女** 利久の兄のゆゑにさびらや
かこのせびんさうをなす

のま よこざし 横倉おのたまや く 漢牛乃 く おろ く 和田屋乃

う く 送りのおくら物娘 く 送りのう **馬** く 送り く 送り

おと く 送りのおくら物娘 く 送りのう **馬** く 送り く 送り

おと く 送りのおくら物娘 く 送りのう **馬** く 送り く 送り

おと く 送りのおくら物娘 く 送りのう **馬** く 送り く 送り

おと く 送りのおくら物娘 く 送りのう **馬** く 送り く 送り

おと く 送りのおくら物娘 く 送りのう **馬** く 送り く 送り

ゆくのやまののりてニラス ゆくのやまののりてニラス ゆくのやまののりてニラス

ゆくのやまののりてニラス ゆくのやまののりてニラス ゆくのやまののりてニラス

ゆくのやまののりてニラス ゆくのやまののりてニラス ゆくのやまののりてニラス

ゆくのやまののりてニラス ゆくのやまののりてニラス ゆくのやまののりてニラス

ゆくのやまののりてニラス ゆくのやまののりてニラス ゆくのやまののりてニラス

ゆくのやまののりてニラス ゆくのやまののりてニラス ゆくのやまののりてニラス

ゆくのやまののりてニラス ゆくのやまののりてニラス ゆくのやまののりてニラス

ゆくのやまののりてニラス ゆくのやまののりてニラス ゆくのやまののりてニラス

アトせがらきふやりのやーかう トはうらこのつらま
しわら変かどき
子トせごんいりて極分をまきやーがら子
どもーふさろがりさやうくもたつらてお
どんさんにおとろさんごまみせんとおとろさん
とらふアア新しんあでごせんまがわらぬし子
サ物さんおほるさんとかりてあらうとかりん
中ーがあつけむらむごこやまとうらわさ
つあておたやーこそそそおほるさんへござり

やせん鬼おにまさんと輪りん者さんへ今まきませんと
いりそわのいヨトおびのうらうらこーんごまやうびんの
画と持し扇あたらてむひのあをりと係
物ものまどーおし物でさけやアワうら物まのふ
りんごりんご又わんまだんで分あせまどつらも
ぬぬくくおまきさんごじしし子こらみ材が備たま
續門つづきをへわりのやーと物出さんし子このお名なの
ーまやアござりやせんトのあふちごもあつたまきま
の中まうらのそひてこれこれ
物ものまどーおし物でさけやアワうら物まのふ
りんごりんご又わんまだんで分あせまどつらも
ぬぬくくおまきさんごじしし子こらみ材が備たま
續門つづきをへわりのやーと物出さんし子このお名なの
ーまやアござりやせんトのあふちごもあつたまきま
の中まうらのそひてこれこれ
物ものまどーおし物でさけやアワうら物まのふ
りんごりんご又わんまだんで分あせまどつらも
ぬぬくくおまきさんごじしし子こらみ材が備たま
續門つづきをへわりのやーと物出さんし子このお名なの
ーまやアござりやせんトのあふちごもあつたまきま
の中まうらのそひてこれこれ

ト二人并敷(出)かかろうへはゆいさうゆいね想ふにされるけさく
 出くもたを志をたの志やつらるるたあこまき入出かひやぐらと
 けりでもらうのゆいねのめがきん
 とせらぬまき成つてく入る
お原 十七のりは思原のひ
 のむまのまうねありそぞゆい入之のきり乃すすがね入下
 ひ乃板もれさるれせんさるちやぞんまのまびかえんちらひん
 乃く天神つらうのつらり物成
 さは縄丁どけ人々より
おん 九のりはねらうてえんて
 神と入のり入まきさうこれさあ神ひちりあんのまきあかん
 極上の思志もとのおび神く入ひもんでさげかえんらりおと
 一のけりあさけのまのまよわぬあつりあしつとふひたよ
 えはせらあけがそのまよとてこれもあつりあつりあつりあつり
 まりののりあつすまおとつら神ありおん入因之ときはるの
 女まをせん箱のらあつりたぐり大のまよてまをせんまこの
 んて小足けりあつりあつり
久 おあぐいちらひらあつり
 要くあつりあつりあつり

よんるせ入 **物** おぢらぬらうのまきありけりしづ
 くり乃内へあんど久 **ア**リヤ男げぬしやのま
場 ト下入鬼文 **鬼文** 一たのま成つてこ **物** さん
通次稲吉来 アとるん
 とうこうん目入 **通次** むびと乃まのほぞござり
 ま 多びたのま **物** さうだつけら **通** 園之さん
世の名代
 よくまきみ入し **の** **モ** けごらへん **通** 園之さん
 ひまきくごまごござり **通** 園之さん おぢらぬらう
通 園之さん おぢらぬらう **物** おまきやア

稲吉 鬼よさんおちん 髪ハ甚どんちんごい
續丁のまをんま 鬼はれろ 稲 フウやをがね人 稲
 さんけり 勢が云乃山の今不でおつらさ 狐ヤシ
 内と船 稲びうが崎 忠白 朝が衣人けごらふ
いふはるふのりくおひはれありのま若あふらふごいごいのと
わたりとらり産あへ 近道小菖花 早戻らういさんちあまのひ
心くふとらりけむぎこままのむび 八幡屋 正七八はよまう
よたはこせのうひゆーしとらうか 乃ゆあんのひく人の花をせん門がうりのおび花かうせん
まふれとさんでかあけ 打本 狐髪入るはくはくゆた

おひ川の酒店 又新 店わたり 井ワムーと
三人のうらこれたふあぶどらうどりのかり 三葉 乃る人けせん
かふふありのあまうらて 小菖花 女ひき 女中お
くさうけくぬれ ひき けのもねくわるまもあまのせんもれ 女やま
いひき けのあけうー 小菖花さんごごくく
 えんとおちちひるとうら 小菖花 翁をばうらうら
 おまいてんぶひたやうめ ひき ここのおまの産 女サ
 けつたきいぬよびあたる 三下 ちうぶ屋のおまけ
 とまふてとてくのや 小菖花 げんやあざれを ひき た

ねやうぶくまじやアねら八重けつとととへお出
 ちせせん三そんち化務坂へさうりのこと
 らう小菰コウニ城公事かんまふちやアで
 ぶさけのう三志とてねかふささねさう
 やまうらうらまやとあらんをたうまさうらうに
 ちまうらうら小菰雁形のもめんしらりらり
三どうたうまさと小菰もめん判の分
サトユビさつ小菰かろさうのん八重モおつあ

かんちまふおつねら三けつとととへお出
 ちせせん三そんち化務坂へさうりのこと
 らう小菰コウニ城公事かんまふちやアで
 ぶさけのう三志とてねかふささねさう
 やまうらうらまやとあらんをたうまさうらうに
 ちまうらうら小菰雁形のもめんしらりらり
三どうたうまさと小菰もめん判の分
サトユビさつ小菰かろさうのん八重モおつあ

見ふハハトトむごなるのうらよ
やどと死うらなれば
 三人のあひくさ **釣** コウ 祐成さん日ふまをて居ち
 下へゆく **釣** 十 よくも神がおりぐうバどふ
 やアヨリい **十** よくも神がおりぐうバどふ
 とももんご **釣** モシ きふいづギアあの子奴さげ
 ておの死よびぬ **田** 何サまんぎうでもぬ
 子 **釣** さういあさんごそコウ 園にてあもあ
かん
 う **かん** よもぬしきみねがあさあうさ
 るぜ **密** 何サあちやアトロくと中かや

とせんかーとぬらうくおらんみせもまの目ら
 ちが身乃うんでごさうやと 月のよとん **十** 羽比
後者の通云
 奈さんさーやア男びぬーやいんくうご屋の
 たりおろぐーと **釣** 何男がぬーやいんサ **十**
とを也
 ち **釣** 何男のびぬーやもそ人よぶさ久 **釣** ムリヤ
 ち **釣** 何男のびぬーやもそ人よぶさ久 **釣** ムリヤ
 ち **釣** 何男のびぬーやもそ人よぶさ久 **釣** ムリヤ
 のサそらりワでニふなるのサそーそとや
 ア子どと。何より。とらふがね瀬しやア

らり。女帝。名。と。と。人。於。由。それ。か。ま。び。
ワ。見。ふ。わ。く。う。な。事。が。あ。る。も。何。洲。の。こ。こ。に。ま。
さ。ぞ。と。や。ア。子。と。と。度。へ。る。女。と。ゆ。ひ。の。外。
あ。り。な。ら。う。こ。う。し。ら。い。れ。ら。女。が。あ。る。を。れ。で。渡。世。
よ。な。り。の。サ。を。ら。ら。我。あ。る。と。乃。お。な。さ。ん。と。は。あ。て。
と。く。ま。み。十。テ。か。な。ら。う。と。と。の。と。を。ら。へ。松。原。久。
味。の。し。と。よ。う。さ。り。や。と。釣。の。う。一。ま。り。わ。ら。つ。
ゆ。り。と。久。それ。も。よ。よ。と。と。り。や。し。や。う。釣。稲。み。

ま。も。た。な。な。し。と。や。ら。ん。せん。ト。小。さ。な。お。ら。ん。あ。つ。
も。く。び。の。お。能。ま。ご。う。み。子。権。を。せ。や。る。あ。れ。と。し。
わ。美。よ。と。と。ま。う。の。女。帝。と。ち。あ。つ。と。又。か。し。を。
け。ん。や。う。久。出。ら。の。中。う。ま。の。あ。れ。を。と。ま。ら。る。
お。寄。へ。と。と。事。が。何。人。久。い。ま。ご。う。け。れ。い。る。や。
ろ。ト。の。あ。る。人。ゆ。こ。に。ま。う。て。あ。る。お。つ。ら。の。か。あ。ん。ぢ。で。い。れ。あ。
る。の。ゆ。に。お。た。へ。と。を。せ。の。か。つ。ら。う。の。際。ご。う。と。と。な。を。せ。あ。ら。な。
く。の。ゆ。に。お。た。へ。の。朝。丸。仕。合。の。志。と。れ。小。ゆ。の。中。に。お。ま。ま。も。ま。き。
と。り。な。と。と。し。ら。う。な。た。し。と。あ。る。い。ま。ま。く。お。し。く。ア。あ。う。う。と。い。えん。
お。な。ぐ。む。ゆ。と。う。の。の。く。ま。ご。を。は。け。て。物。を。と。ま。う。に。又。ま。か。ん。く。て。
は。ま。り。か。り。あ。ら。う。さ。ら。な。ま。ら。り。根。だ。ん。や。女。へ。な。ら。り。ま。か。ら。う。

のりあつた月とつゆのんごつ 舞臺のモトげんを
どうせはうりしぬちるるあつたあつたおらんを
せー^物しやうちく

第三回

意々情中裏とて大いそ通ふを
へう屋位内の小路りて妓家物成つ
福の棟瓜すべて櫛の齒を扱くふに
き人出入行とれ多めね物下借のき

場小のまゝ死まが中も鶴とつ
縷々竹差けさる舞鶴伝
といふ妓家なり 内展の
長谷観六 順おやうさ
ていふ傳之 通俗の
観とつたふのな公人がわりや
びがさるりやう一身の志ねん

女をとてりとらも鼻すりのののののの
女をとてりとらも鼻すりのののののの
人もほはらひつがらるも足でもつのちやアのひの今親
何サ根根張張よくたじてまやアの今親
のましホニハてるらるにりももつのちやアのひの今親
おお判判ええんんびび判判だだまま張張入入みみすするる今傳
二人二人ががままぎぎねねんんんんのの四四日日つつくくももわわん
ををししひひ張張中中ににいいひひららるる張張どどももででいいひひらら
くくんんててわわらられれはままじじのの事事ががももああららけけととああららいい
やいいのののの張張せんせんどどののままももああららいい
とややららいいのの

とと名名ふふくくるるままををががててののひひらられれるるままののここそそととててままなな公公人人ののああららいいののままん
めめののごご親親みみ年年でで金金ももままももななららぬぬおおままののああららいいササ
アアああししここああららいいここももああららいい傳傳ああししここああららいい今親
親親わわららいいなな公公人人ののああららいい今傳ああししここああららいい今傳仕仕
切切ああららいいせせままいい親親判判ををままももももととままららうう今親
ばばんんむむらら乃乃忠忠たたががわわららううももうう人人ががああららいい今親
くくららそそららいいたたととららううももわわけけややししかかううおおららいいんん
ててららいいののああららいいとと付付くくららいい今親
ててららいい今親
ててららいい今親

七二

りうける 傳そりやア どういとも一や 親そんり
おちんそくうむまごうれみあもかしくんをせ
くまひ金のしぬむ 傳そ積とをよくあつくと
くん福 親きぶけいあをせよみらひひかた
ちよせりねんまごうごうゆき玉なんざアつや
ア志やせんりま ト親さくろのまきやあまごのまき
わうろう人のまうりのおりくしの流
親^{ニムより}おてうちあるとたや^{上あくのせう}と
けい^{てうりり}のいとも福がもまらん^そが^ち我のあめ

とちうのまき^{たか}よぶのいとうにきんてめうろせ
てよけやア 又新乃茶屋へといろてあらぬ
米もあつくとねんか子とせあや^まきうま
ねん^なと長家^ないんあねをぶくしてくれよ
あごうろ今まを大目ふんてめうせうろ
とらふり^れ寝たり千ねと茶屋乃^れせうをんも
とら^こく^{しん}の^ま客とせあつてぶかの^まけげぶ
け^ま宗^まとちうのまきくも肉^まはう^まあつてめう

ガハテも又ぐコウアトおのふがわぶの二年と
まんがしてと往ぬちうとらさんさくくも
ねまを男ぶさうすせアも年や二年のねんま
へん往くもやさうしてもやが地めふちうの子男
と年ちうふちうてふ来まやア又おまもせし
してか人の年ちうもするやうにしてやるもあも志
つこのことりお往も長命ぐお徳具にせま
玉張わぶらて土地とらんの世格も志ておま

肉を子供より方一乃いでもあやや長家申
へおまが顔がとねん+きまらうがうてんい
物くはれぬたのおん
まのまらうおま
まのまらうおま
まのまらうおま

第四回

女ひで
朝比奈元んモウおのりなる
海と又
かしむるも
十

○**臺**で申一とぬ**物**おらふのりまこれ申ううの**久**

親づけいいごごりやせん**物****十****忠**たしご成ありる女

まてしをり祐ありりたごしとこりけてまはあけりる女

つげ成事これ乃つ成るるを兒めのとおてまてきまてまを娘

お下女るとり岸**女**ボラウシこれよりやがんので

まておらりてゆく**女**ラヤス所さん**女**サアおわぐん

おらりる者我のみ**女**ラヤス所さん**女**サアおわぐん

村家と云きまて**女**ラヤス所さん**女**サアおわぐん

乃 畠山屋ふあごらごまてわらううをうら

けらうてま申う**女**モレマアそれバアおてうさん

のりうらふごごりやと**久**いかりにいろくおて

下せんおらふらうてくらアトおらりる女どりま申うら

久おらりる女どりま申うら今申のまや祐ありらあけ

久おらりる女どりま申うら今申のまや祐ありらあけ

久おらりる女どりま申うら今申のまや祐ありらあけ

久おらりる女どりま申うら今申のまや祐ありらあけ

久おらりる女どりま申うら今申のまや祐ありらあけ

らう性しやうなる成志ありておてしうさんぬらほけ
 中とよあ この内もふぶく の お て し う と あ る 中 に あ る
 あつてきりしゆたをそれとげぢうまほと お て し う の 女 が あ ら せ
 おひひまごしげんまをそあつとわとまぐ お て し う の 女 が あ ら せ
 ゆきしをあげて お て し う の 女 が あ ら せ
 ちよとあひまあり お て し う の 女 が あ ら せ
 又志よけく お て し う の 女 が あ ら せ
 おひひまごしうとまごりしそよんでおくるぬれ
 ちげんま お て し う の 女 が あ ら せ
 のたごこと候とおぢあふまごしうとまごりしそよ

くんねくごしやう お て し う の 女 が あ ら せ
 上をふおあとのあり お て し う の 女 が あ ら せ
 て子供のせらぬかきり お て し う の 女 が あ ら せ
 又 お て し う の 女 が あ ら せ
 上 お て し う の 女 が あ ら せ
 廊が谷の未廣屋に志んごう お て し う の 女 が あ ら せ
 ぶがおちごう お て し う の 女 が あ ら せ
 殊一で お て し う の 女 が あ ら せ
 おそまごのう お て し う の 女 が あ ら せ

でうーめいせいんよあつてまきんしんはさつじんり
まけても移入マシうまや移入ホニあつてうまや
あつてうまやホニ用事ヨウジあつてうまや
トヤアトヤあつてうまやホニあつてうまや
まきんしんはさつじんり
うまやホニあつてうまやホニあつてうまや
うまやホニあつてうまやホニあつてうまや
うまやホニあつてうまやホニあつてうまや
うまやホニあつてうまやホニあつてうまや

む気がちびつてうまやホニあつてうまやホニあつてうまや
ト何くらううまやホニあつてうまやホニあつてうまや
あつてうまやホニあつてうまやホニあつてうまや
あつてうまやホニあつてうまやホニあつてうまや
あつてうまやホニあつてうまやホニあつてうまや
あつてうまやホニあつてうまやホニあつてうまや
あつてうまやホニあつてうまやホニあつてうまや
あつてうまやホニあつてうまやホニあつてうまや
あつてうまやホニあつてうまやホニあつてうまや
あつてうまやホニあつてうまやホニあつてうまや

こころをえせんらん二ふ度出さアあの
梶 屋をまじいアト おたより大あぐら。こころをえあう
つごおのりおまのりゆきおれえ
けしみにいふやうに成るをまじうしと作只とていふ
らむりのききをもたぬおれとよふきんで一ふ二葉ふい
もするたごきとていふくこしへもやアおアやうと
のいでちよふとていふくこしへもやアおアやうと
神 平の焼乃程とていふやうに小氣をうらとて
わしふさをまアかかかてんを家守くこえ
のくまのめら個にまじうしとていふくこしへもや
通 り若瓜喰つてまがたぐくくおそれと

あまのめらえら程人う近江名湖あへ月ざら
とていふやうにわらあふとていふくこしへもや
すこや ゆん 秋の畷をまじうしとていふくこしへもや
まふ出番のやうとていふあつとていふくこしへもや
ちよふを鯛門屋の羊乃史とていふくこしへもや
ていふくこしへもや よふい 霄とていふくこしへもや
こがんとていふくこしへもや まげぢ 管次が門のたご
にぶやア出つてとていふくこしへもや

小鯉ひしこの汁じゆの中なかへ下袋うろち之の文もんをこうがじ
 とありもて小鯉ひしこんううう汗あせをなくらうう
 さらう てう モシへ 飯いをなづくふし七ながらんままま
 やーららららアわやまりやしやうわんま
 でこせとけーかう秘ひ 権 えんとけいうぬぬ
 けーぐらうりやアナうううかしやワんまひひ
 ナのがなんうとく裏うら店たみ人い ッ こひいこれこれこ
 やアまわ何なにをうりやるな公こう人にんとないい

名なまま入い出で居い尻しつ危いで亭てい主しゆとことくのううい
 きまんとアらららううとびく都り入出り
 がたんどろろ客きやくがきききききらられあくのと
 何なにとあてとくのうう經きやう作さく屋い乃の達たつ摩まう宗
 十じゆ郎らうが似款かうやアぬぬが横目めとぬぬんとく
 もちのんどやアぬぬぬとくとぬん胸をて
 ねむぎけいさららとんららとぬとアさうあのつて
 ひよの肌命いのちもは生なまさせ身上う之の縄なを付

てしとらうとまてううあうとあうとつえ
 うららちやアほんのそらうがお袋乃まこ
 ぐらうかきぎあうとらうと鎌倉風のひより
 下結瓜をめぐらうと河を櫂舟船と
 鶴うさのハよんさぬへ文系り瓜しく桐村
 されのざるそははとてうなのもるだくとぞち
 乃まごの四角と松ありと如りの重たとぬえ
 小あまの晦日の月を屏風風をそ十三乃

場あうとちと下はあひて隅すま
 度びくまうらふ月の初劫定うう賞は
 わ一年中を空窓帳はとれが表使ぐとぞや
 大つとととりのまのうとて尖月あア舟
 舟あま焼うのうての挽使さまごとの物者
 流劫定はらうとくつくつまひかほく
 座屋のそんアあうとよめくうの座ぐい
 すまをいしとまの座乃さんごうの唱みれ

おかしな「い」もろく てういようちやつておた
なド、オ、シ、ワ、ミ、ウ、ム、レ、ン、ナ、よ、ち、り、ど、よ、又
るんのちりど てうちねん みの秋葉 ま
うのり 笑 怒をけりば つ びつら ひ
かんじでよさういふてん 女 お り てう ユ リ オ ハ ヒ コ
やえんのまう、ひび
かりごとくして、りのおふのひんたのまて
らんまわぐ肉のおむくさんがおひきけり
のちよろところ人教をさへてらんねん お い イ

さうや や か し つ 又 漆のくさ てう ちりや
せん 枕 杷 葉湯 て あ の ひ お や
くさ り ど て う あ て さ や お ひ ま お さ う さ ん ん
てん お ち ん ん ん ん ん ん ん ん ん
も 秘 傳 つ つ あ し ん が き そ お ら ア ナ ひ
サ ら ア け し さ ん ど お ら ん ん
よ く ま ら ん ん ん ん ん ん ん ん
て う ち よ ろ ん ん ん ん ん ん ん

いりうららのんあまふく〜箱たまの上よりいり
ぬく〜があう〜むあま深ふか辛しん（むじ）であら
てのこあうりてさなたごめ中（イ）あ〜さご
このけらでよき〜あらんぬ人又サカ岩いわ結むす成なり出で
ち〜う〜くあふて〜んあさんたよち〜のあ〜ん
あ〜あ〜ふゆあは〜〜せぬ〜中〜あよひく
あ〜うら〜あまゆさんあき〜く又ライのゆ〜くの
トひりい てう なたを〜すけ〜め〜ま〜て〜し〜あ〜あ〜
くお てう き〜り〜し〜あ〜ひ〜が〜〜あ〜の〜た〜あ〜り〜し〜ら〜る

あ〜ら〜と〜い〜け〜 又 周羅しゅうらあ〜り〜の〜め〜ら〜と〜る〜ん〜を〜
あ〜ん〜あ〜の〜あ〜ら〜あ〜い〜や〜〜く〜く〜ワ〜ら〜ら〜だ
てう 何なにき〜や〜く〜あ〜ん〜ぶ〜だ〜と〜ん〜 又 ニにウうの〜ぶら
あ〜け〜が〜た〜ら〜い〜の〜 又 茶茶ちや屋や〜し〜の〜い〜
で〜う〜も〜が〜は〜ら〜い〜い〜い〜 ちちちああららの〜ああららははけけが
ま〜ら〜ら〜ら〜あ〜ら〜ら〜ら〜く〜く〜ワ〜ら〜（あ）の〜め〜あ〜の〜よ
又 あ〜あ〜あ〜の〜ん〜ご〜あ〜あ〜あ〜ら〜ら〜ら〜い〜あ〜あ〜あ〜ら〜ら〜ら〜
チチアアトトの〜り〜く〜あ〜ら〜ら〜の〜あ〜ら〜ら〜の〜ああまま入い
又 ウウうの〜し〜り〜く
のたご〜く〜あ〜あ〜あ〜ら〜ら〜ら〜く〜く〜ああまま

どうすねんごぞせんもせうしんはりて
 ぎして 天まののきりも てうおき入ぬ
 く 天らんう ひ登まぬのさとりぬ てう
 めげや や 天ウ ウコエリヤ

仕懸文庫畢

追加

前子 許来の山冊や てう此大磯に
 地 てう 抄あそ まの け 情を ま ま
 能 天 コ コ リ キ コ マ カ リ キ の 時 代 り と
 う や 十 年 の 地 扱 り を 編 む け い ま ん の
 上 に 下 モ あ る は し ら し ら し ら し ら し ら し ら し ら
 明 お 統 の 代 を い お ね た し り 人 情 を い ら す
 と 世 と 風 の う ら い か ら る 白 の ひ の

了^り法^りを^て心^を以^て矢^をの^りく^て此^の反^を乃^を整^へさ^るれ
和^を三^をと^を糲^をく^てく^て味^をり^をと^をや^を或^をら^を整^へて^を烟^を
サ^をの^をあ^をく^てシ^を整^へる^をり^を取^をり^をと^を身^をひ^をは^を此^をと
穿^を牙^を整^へて^を十二^を結^を目^をの^を筆^をは^をり^をも
三^を結^を目^をの^を拘^をえ^をく^てく^て我^をを^を人^をを^をて^を以^て
一^を都^をの^をま^をと^をな^をは^を松^を予^をの^を牙^をの^をい^をく^て
三^を留^を所^をハ^を此^を此^をの^を持^を子^を乃^をく^てく^て一^をま^をと^を行^を
而已^を

跋



河^を豚^を羹^を或^を不^を食^を愚^を鹵^をあり^を。
く^を不^を癡^を呆^を所^をり^をく^をく^をく^をれ^を愚^を昧^をハ
美味^をと^を不^を知^をく^をく^を羹^を愚^を疾^をと^を有^を毒^を
或^をく^をく^を毒^をあ^をる^をと^を去^をく^をは
く^をく^をく^を人^をと^を論^を不^を足^を

美味と志とを以て。くまを以て
人ハ一いつがい既いぬいくいてい危あやうくい不ふ佞ねい
京傳きやうでん嘗かつ好こうをを淫いん蕩たうとと著ちやく述じゆつ
をを以もつててどどもも實じつハハ前まへハハ美味
ああるるをを述じゆつすす。後のち并なら
毒どくああるるをを示しめしし。戒けいをを垂たらし
すす

可か多ためめ也也不お如ち美味と知しりり毒
戒けい志しのの以もつてて恐おそ怖おそめめらら。河か狹くさを
之これ死しすす。命いのちハハ惜おそししとと六む堂どう此こゝ
境さかいをを憚おそりり。君きみ子こ乃すなはちち言ことすす
ととんん也也。孔こう夫ふう子し衛ゑい國こくのの老らう實じつ
家やをを過とほすす。日ひここととあありり。吾われ亦また
不ふ知しずず

徳と好老吹肚臭と母がみくす
このむよめ。ふぶく。あ、それ。
 ろ者とととととと。嗟夫。ホニ。傾國。
あつてかむむる。あつてかむむる。
 傾城。まのら。鐵炮汁の勢以
あつてかむむる。
 子あ〜ま〜。何ぞや
 ろ〜ら〜ほ〜ま〜と



晒落本類目錄 江戸通油所耕書堂
 葛屋重二郎板

傾城買四十八手 山東京傳作 全壹冊
きやと女帯れこんたんきり

小紋雅話 同作 全一冊
あせあせきこくあせあせ小

新造圖彙 同作 全一冊
きんのうづいふあひてあせ乃

通言總雜 同作 全一冊
のてあづひあをあもくあ

百人一首 初夜抄 同作 全一冊
百人一首あふ鄙俗の〜あ

傾城鑄 同作 全一冊
あせあせあせあせあせあ

右原揚枝

同作
全一冊

けいせいの夢の極ひでんきやと
女帝のころろえんあつす

容衆所懸子

同作
全一冊

おんんか新造亮中との風俗を
探つるひききやたむぐとあつす

小紋新法

同作
全一冊

世よはゆるゆる母き物かこえん
おろろをわくおろろをわくか

三教色

唐本和作
全一冊

神佛佛のようつう極ひおそ
とけつひけつちと出わつた

和唐珍解

同作
全一冊

おきんの女帝笑のころんえん極ひ
英きききき行唐事伝志と

娼妃地理記

喜三之作
全一冊

右原入丁町外万国ふあつて
産物ふあつてふあつてあつて

柳巷化言

同作
全一冊

けいせいのあつてけいせいのあつて
なるとあつてあつて奥の幸あり

氣のくま

同作
全一冊

けいせいのあつてけいせいのあつて
くまのあつてあつてあつて

野夫體

全一冊

かきいやれはあつてあつてあつて
けいせいのあつてあつてあつて

腹筋三略卷

全一冊

右原あつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて

曾我糖袋

全一冊

けいせいのあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて

手管智恵體

全一冊

あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて

泮都酒美撰

全一冊

あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて

葉軌本記

全一冊

あつてあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて

山東京傳戯作

窠窟

四十八巻後編

全一冊

初編ふあつてあつてあつてあつて
あつてあつてあつてあつて

辰巳 仕懸文庫

全二冊

ふろ川の由世みかも
まろねあそびとまろね

傾城貫早学同

全一冊

ようけいあそびの極秘
とまろね

娼妓繪籠

全一冊

まろねあそびとまろね
のあそびまろね

地者八景

全一冊

地まろねあそび
あそびとまろね

總領優細見記

全一冊

吉原細見の芝居役者の
まろねあそびとまろね

雜誌紙屑籠

全一冊

これとあそびとまろね
あそびとまろね

115456

